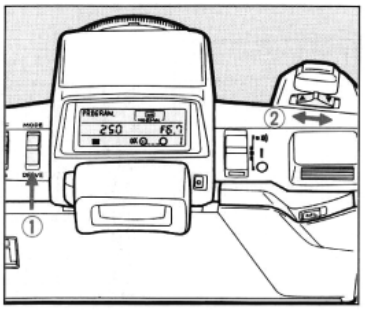
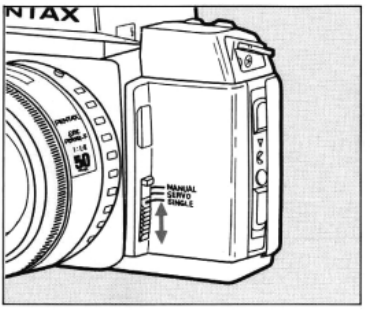
撮影のポイント



1. モード〔MODE〕側にレバーを押しながら、セレクトレバー〔▲▼〕で露出モードを決めます。〔8·14～25ページ〕



2. フォーカスモードレバーをシングル〔SINGLE〕に合わせます。〔29ページ〕
シャッターボタンを軽く押すと、レンズが作動してオートフォーカスが働きます。〔30～35ページ〕

3. ファインダー画面中央の〔 〕マークを写したいものに合わせます。シャッターボタンを軽く押して、ファインダー下の〔○〕表示〔緑色〕が点灯すればピントはOKです。〔30～35ページ〕

●フィルムの規定枚数を撮影したら、パトローネにフィルムを巻戻します。撮影済のフィルムは、早めにカメラ店へ出しましょう。〔36～37ページ〕

準　備

SFXには、標準セットとして、リチウムバッテリーグリップSFXが付いています。このグリップには、次の6Vリチウムパック電池1個を使用します。

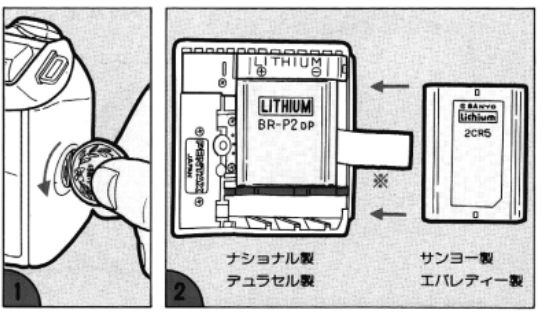
リチウム電池

BR－P2DP　〔日本·ナショナル/パナソニック製品〕
DL223A　〔アメリカ·デュラセル製品〕
2CR5　〔日本·サンヨー製品〕
EL2CR5　〔アメリカ·エバレディー製品〕

※上記以外のタイプでは、電圧特性が劣るため、使用中にバッテリー警告マーク▭が出る場合があります。〔シャッターがきれるうちは、撮影できます。〕

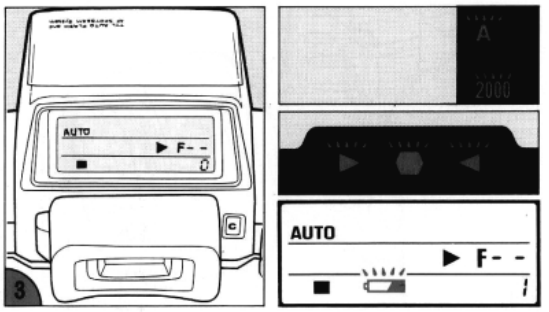
●電池の入ったバッテリーグリップを着脱するときには、表示パネルの表示が全て表示され、ストロボの充電完了ランプも点灯します。

電池の入れ方〔リチウムバッテリーグリップ〕

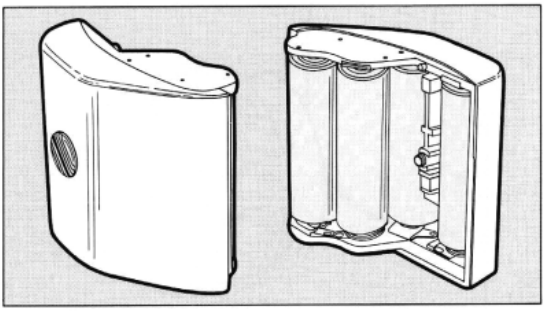


1. バッテリーグリップ固定ネジをコインなどで左方向に回して取りはずします。
2. バッテリーグリップ内側の⊕⊖表示に合わせてリチウム電池を入れ、バッテリーグリップを元の位置に取りつけます。
〔リボンを引っぱると、電池は簡単に取出せます〕

※BR－P2DP〔ナショナル製〕やDL 223A〔デュラセル製〕電池は、図の赤線部分の内枠に電池をはめ込みます。2CR5〔サンヨー製〕やEL2CR5〔エバレディー製〕電池は、少し長いので外枠内に入れます。



3.図のように、セットされている露出モードが表示パネルに出ます。表示が全く出ないときや逆に全LCDが出たままのときは、電池の容量がないか、電池が正しく入っていないときです。もう一度確認してください。〔LCD＝液晶表示〕



図のように、単３バッテリーグリップSFX〔別売〕には、次の電池を４本取りつけて使用します。電池を入れるときは、⊕⊖表示に合わせて正しく入れてください。⊖側を先に入れ、出すときは板バネ側⊕から出してください。

※電池消耗警告

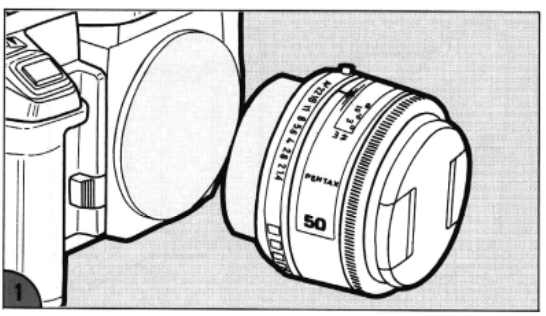
電池が消耗して容量がなくなってくると、表示パネルのバッテリー警告マークとファインダー内の表示が点滅して知らせますので、新しい電池と交換してください。また、電池容量が使用限界を越えるとシャッターがきれなくなります。

使用可能電池

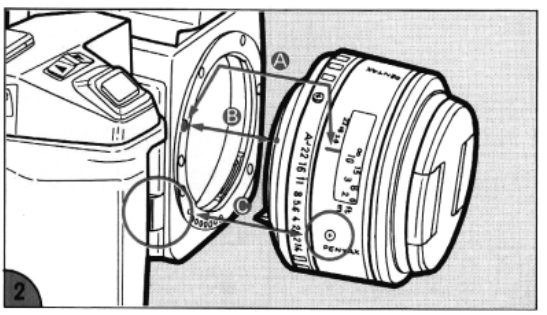
単３形アルカリ乾電池LR－６

- 単３形マンガン乾電池〔SUM－３〕も使えますが、撮影本数は極めて少なくなるので、アルカリ乾電池をおすすめします。
- Ni-Cd電池は使用できません。

レンズの取りつけ・交換〔すでに取りつけられているときも読んでください〕

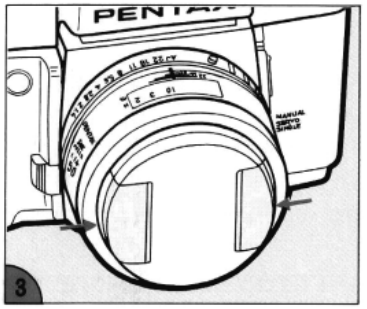


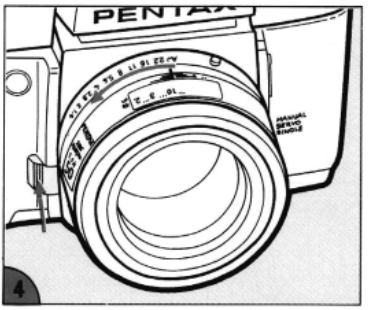
1.ボディーマウントカバーやレンズマウントカバーをはずします。

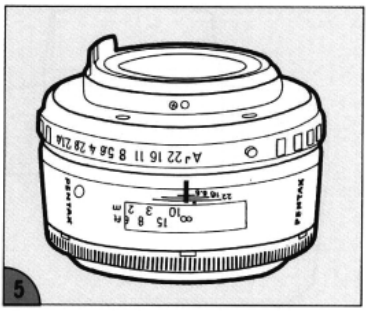


2.ボディーとレンズは赤点指標Ⓐ・Ⓑを合わせて取りつけます。レンズを右に回すとカチッと音がしてロックされます。Ⓒで合わせる方法は、暗い所で手ざわりで行なうときなどにご利用ください。

- 別売りで、バヨネットタイプのボディーマウントキャップFやレンズマウントキャップKが用意されております。







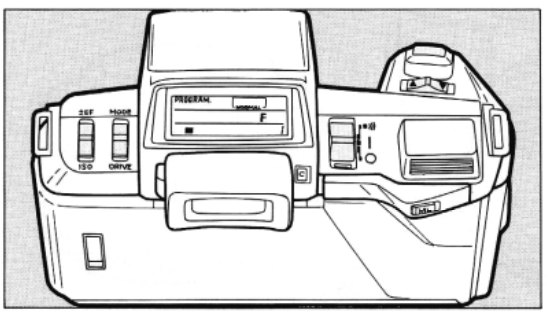
3. レンズキャップは、両側の矢印部分を内側に押して着脱します。
4. レンズを取りはずすときは、レンズロックレバーを押しながら、レンズを左に回すとはずせます。
5. はずしたレンズにはゴミや汚れが付かないように、レンズキャップやレンズマウントキャップを取りつけてください。図のように置くと安定よくなります。

※ペンタックスAやMレンズを直接取りつけて使う場合は、フォーカス表示によるマニュアルフォーカス〔34ページ〕が使えます。また、AFアダプター1.7×〔別売〕を組合わせると、オートフォーカスが働きます。

※旧製品のタクマーねじマウントレンズはマウントアダプターK〔別売〕で取りつけられますが、ピント合わせは、ファインダーのマット面で合わせます。

ボディーやレンズのマウント面にレンズ情報接点やAFカプラーがあります。キズをつけたり、汚したりしないでください。汚れたときは、清潔な乾いた布で拭いてください。

メインスイッチ・操作レバーとセレクトレバー・シャッターボタン



メインスイッチ
カメラを使うときは、メインスイッチをON〔I・))〕にしてください。また、カメラを使わないときは、不用意にシャッターがきれないように、メインスイッチをOFF〔○〕にしてください。

● メインスイッチを〔))〕マークに合わせると、「ピントが合ったとき」や「セルフタイマー作動中」を電子音「ピーピー」が鳴って知らせます。

操作レバー〔MODE/DRIVE・±EF/ISO〕とセレクトレバー〔▲▼〕
モード〔MODE〕/ドライブ〔DRIVE〕レバーや±EF/ISOレバーを表示側に押しながら、セレクトレバーをアップ〔▲〕またはダウン〔▼〕側に押して操作します。また、セレクトレバーは、シャッタースピードのセットにも使用します。〔細部については14ページ以後に説明してあります〕
モード＝各露出モード〔プログラム自動露出など〕
ドライブ＝セルフタイマー・シングル撮影・連続撮影
±EF＝露出補正
ISO＝フィルム感度

シャッターボタン
メインスイッチをONにして、シャッターボタンを軽く押すと、露出計やピント合わせ〔オートフォーカス〕のスイッチが入り、表示パネルやファインダー内にセットされた露出表示が出ます。〔露出表示後シャッターボタンから指を離しても約10秒間表示を続けます。〕
さらに押すとシャッターがきれます。
● 裏ぶたが開いた状態で、シャッターをきるとスピードは一定速になります。

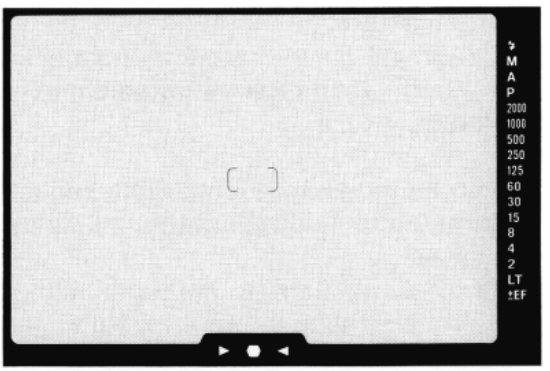
LCD表示パネル・ファインダー内表示

LCD表示パネル〔説明文中は表示パネルと略します〕

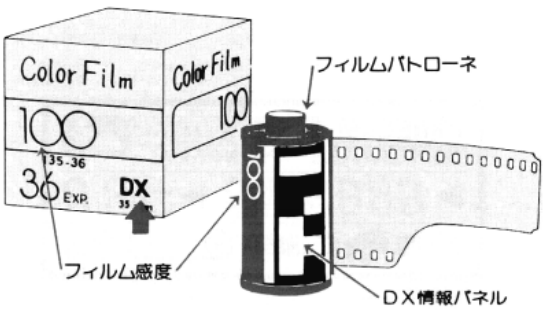
- シャッタースピード表示は、プログラム・絞り優先自動露出のとき「2000〔1/2000秒〕～30"〔30秒〕」まで、シャッター優先自動露出・マニュアル露出のとき「2000～1"」を1段階ごとに表示
- 絞りF値表示は「F1.2～F90」1/2段階ごとに表示
- ISO表示は「6～6400」1/3段階ごとに表示
- 露出補正表示は「＋4～－4」0.5段階ごとに表示
- フィルムカウンター表示は「0～99」

ファインダー内表示

〔 〕	フォーカスフレーム表示
▶○◀	フォーカス表示〔前ピン・合焦・後ピン〕
ϟ	ストロボ充電完了表示〔内蔵ストロボのときは、ファインダー横のランプ表示〕
M	マニュアル露出表示
A	シャッター優先・絞り優先自動露出表示
P	プログラム自動露出表示
2000～2	シャッタースピード表示〔2000は1/2000秒、2は1/2秒を示す〕
LT	ロングタイム表示
±EF	露出補正表示



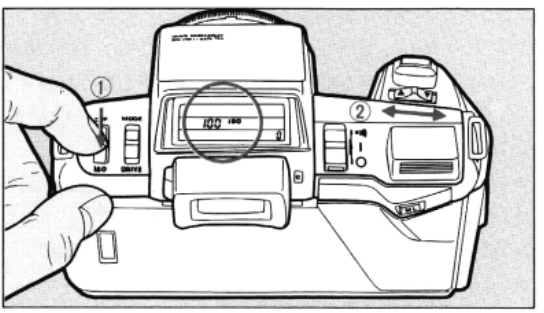
使用フィルム〔DXフィルム・一般フィルム〕



DXフィルム

DXフィルムを使うと、フィルム感度が自動的にカメラにセットされます。
DXフィルムは、パッケージにDXマークまたはフィルム・パトローネにDX情報パネルが表示されていますので確認してください。

- DXフィルムで感度セットできる範囲は、ISO 25～5000のものです。この範囲内の感度フィルムをお使いください。
- DXフィルムを入れてから、右の手順で、異なったフィルム感度に変えると、表示パネルのDXマークが点滅して知らせます。〔増感・減感など〕



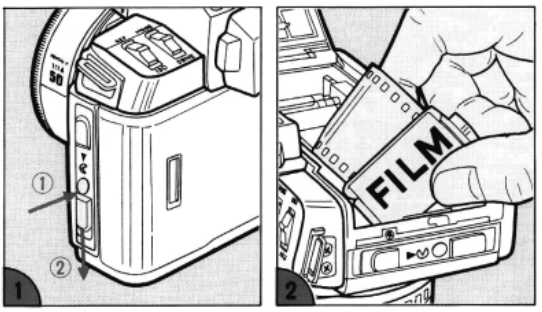
一般フィルム〔DXでないフィルム〕

DXフィルム以外のフィルムを使う場合は、フィルムの箱に表示されているフィルム感度〔ISO〕を必ず合わせてください。

ISO側にレバーを押すと、表示パネルにセットされているフィルム感度が表示されます。フィルム感度は、ISOレバーを押しながらセレクトレバーのアップ〔▲〕・ダウン〔▼〕レバーを一回押すごとに表示が移動し、押し続けると連続して移動するので希望の数値をセットして止めます。フィルム感度表示はISO6～6400で1/3段階ごとに表示します。

アップ→高感度側〔6400〕へ移動
ダウン→低感度側〔 6 〕へ移動

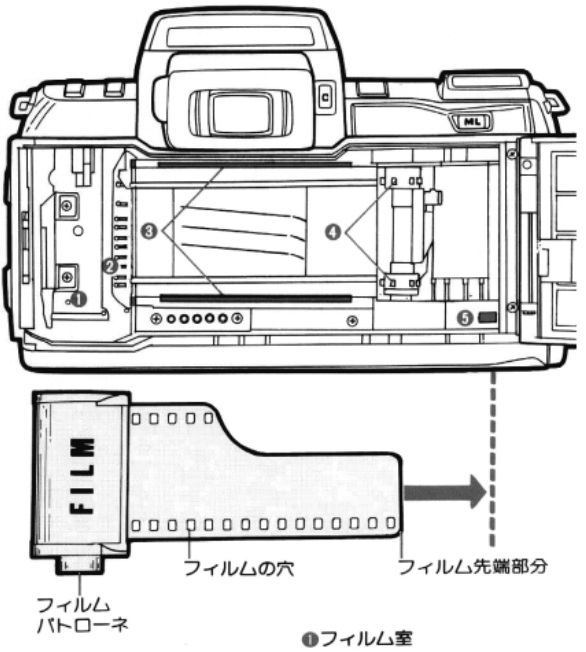
フィルムの入れ方



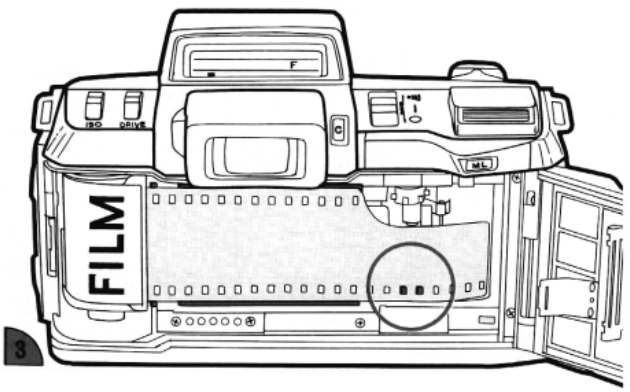
フィルムの出し入れは直射日光を避け、体の陰などで行なってください。

1. 裏ぶたロックボタンを押しながら、開放レバーを下げると裏ぶたが開きます。
2. フィルム・パトローネをフィルム室に入れるときは、カメラ上側を先に入れてから下側を入れると、簡単に入ります。

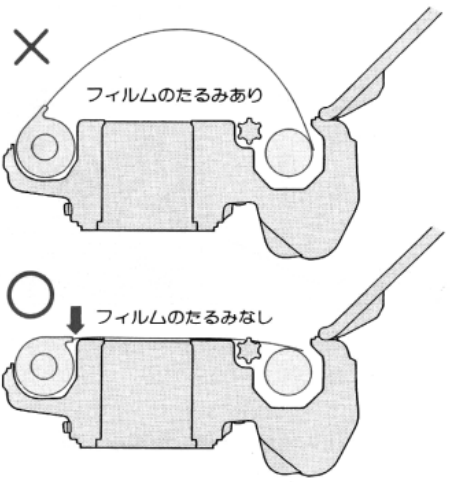
> ＤＸ情報ピンは、フィルム感度をセットする大切な接点です。曲げたり・キズや汚れ・ゴミ等を付けないでください。



❶フィルム室
❷ＤＸ情報ピン
❸フィルムガイドレール
❹スプロケットの歯
❺フィルム先端マーク



3. 図のように、フィルム先端部をボディーのフィルム先端マークに合わせます。



- フィルムはたるみがないように入れてください。
- フィルム先端が極端に折れ曲っているものは、まっすぐに直すか、曲った部分を切取ります。
- フィルムの穴〔パーフォレーション〕を、○印のようにスプロケットの歯に合わせます。
- フィルムがフィルムガイドレール〔赤線〕の間に入っていることを必ず確認してください。